

令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜I）

小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

以下の2つの文章を読んで、下記の問いに答えよ。

## 非公開

(金春喜, 『タンパク質危機, ハエが世界を救う? 肉・魚に頼らない』, 日本経済新聞ウェブ版, <https://r.nikkei.com/article/DGXMZ054508520X10C20A1TL1000>, 2020/01/21, 抜粋)

## 非公開

(三井住友ファイナンシャルグループ, 『～特集～タンパク質クライシスと気候変動問題を“おいしく”解消する植物性代替肉』, 環境情報誌SAFE, 2019年, VOL. 129, 5～9ページ, 抜粋)

- 問1. 文章1の下線の「できること」には、どのようなものがあるか? 生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーの観点から具体例をあげて、それがどのように「タンパク質危機」を解決するのか? それを実行する際の課題は何か? あなたの考えを400字以上600字以内で記述しなさい。
- 問2. 文章2に基づき、「タンパク質危機」を回避するための方策について、社会・経済・環境の観点から、あなたの考えを400字以上600字以内で記述しなさい。ただし、「資源の分配」「経済格差」「地球環境」の3つのキーワードを必ず使用すること。

# 令和3年度入学試験問題（学校推薦型選抜I）

## 小論文

農学部 亜熱帯生物資源科学科

### 出題の意図

農学部の教育理念は、沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を活かし、生物の生存環境と人間の共生を目指して、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、栄養・健康・長寿及び発酵・生命に関する専門教育と研究を深化させ、その成果の蓄積・活用と人材育成によって、地域社会並びに国際社会の発展に貢献することを目的としている。

本学科のアドミッションポリシーは、「沖縄の亜熱帯島嶼性という環境で学ぶことを望み、農学分野の技術開発及び研究等を行う専門家として国内外で活躍することを志し、その学習のために必要な基礎学力を有し、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲に溢れる人」を求めている。具体的には「生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人」「健康の保持増進に有効な機能性食品の開発に興味を持つ人」「発酵科学を通じて食品・医薬産業に貢献したい人」を挙げている。

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標であり、本学科の教育理念と一致している。特にSDGsゴール2「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」は本学科と密接な関係があり、中でも「タンパク質危機」は大きな課題である。本試験では、問1において、タンパク質危機の解決に資する生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーについて問うことにより、本学科の求める「生物資源の利用・開発及びバイオテクノロジーに関心のある人」の素養を試す。問2においては、SDGsの考え方、すなわち「社会、経済、環境の3側面に基づいてタンパク質危機を回避する方法」を問うことにより、本学科のアドミッションポリシーにある「広い視野から社会の発展に貢献したいという意欲」を測る。そして、問1と問2の両問題を通して、生物資源やバイオテクノロジーを学ぶための基盤となる読解力や論理的な文章を作成する思考力・表現力を測る。